

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム大津

ユニット名 のぎく

自己評価実施年月日 平成 20 年 12 月 3 日

記録者氏名 木戸 貴美

記録年月日 平成 20 年 11 月 7 日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域で認知症の人が普通に暮らせることの大切さや、グループホームの役割などのパンフレットを地域に置く
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	玄関先に近所の方が立ち寄ったり遊びに来たりしおすそ分けが出来る関係作りができるように取り組みたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	日頃の挨拶はもちろん、筋目の挨拶盆暮れの挨拶周りに行きたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>地域の高齢者の暮らしに役立つことについては、話し合いは少ない。</p>	○	地域の高齢者の暮らしに何が役立つ事かを話し合っ て行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>現状を多角的に分析することによって、改善すべきことを発見してサービスの質を上げていくことの意義を理解している。</p>	○	評価を生かして具体的に改善をしていきたい
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>2ヶ月に一回行っており、活動報告資料を作成しサービスの実態を報告している。そこでの意見、評価を生かしてサービスの向上に役立てている。</p>	○	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>自治会、町内会、行事などに参加した時市町村担当者と会う機会がある。</p>	○	市町村と担当者と会う機会を積極的に作り、サービスの質の向上を図りたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>法人全体とする研修や、実践者研修、施設内ビデオ研修に職員全員が参加できる機会を設け奨励している。</p>	○	個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にそれらを活用できるように支援したい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p> <p>法人全体とする研修や県が実施する実践者研修、また施設内でビデオ研修して学んでいる。日々を振り返りながら、虐待が見過ごされてないか話し合う機会を設けている。</p>	○	自分たちのサービスをビデオで映し、振り返りより現実化しながら話し合いの機会を設けたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書で十分説明し質問、疑問点を尋ね理解、納得を得ている。解約する時は、今後のサービスの方向性を知り、家族の不安がないよう関係者と連携している。	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、困っていることや不満がないかをよく尋ね気楽に苦情を言える雰囲気作りをしている。また、個別に話をする機会を設け意見を聞いている。聞いたことについて運営に反映している。本人が家族に不満を伝えたいときは自由に電話連絡が出来る。	○	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会、電話連絡時に個々の状態や暮らしぶりを知らせている。11月より第1回のグループホーム便りを作成し家族に送付する。	○	11月より第一回目のグループホーム便りを作り家族に送り、事業所の活動報告をしていきたい。個々の状態も文章で知らせたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置しいつでも記入できるようにしている。面会時、電話連絡時に気楽に相談や苦情、不満が言えるように配慮している。	○	家族会を開催して第三者が入り家族同士で本音で話し合える場を設けたい。具体的な意見を出してもらってサービスの向上に生かしたい。アンケートなどでより多くの相談苦情を出してもらえるよう配慮したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングや月一回の職員会、ユニット会、勉強会、気づきのノートを利用して職員の意見交換できる場を多く持つように心がけ反映している。	○	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	起床時や就寝時、入居者の状態やペースに合わせた職員のローテーションが組まれている、職員の急な休み、急病の時交代してくれる職員がいる。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の体調管理に配慮し、精神的なストレスを抱え込まないように面接し相談や不満を話せる場を設け異動や離職を最小限に抑えている。代わる場合は説明し、新しい職員を受け入れてもらえるよう紹介して、ダメージを防いでいる。	○	
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は、担当責任者が年間の計画を立て実行しており、それに参加している。実践者研修や市町村からの案内のあった研修を受ける機会を確保している。施設内でも1年間の計画を立て働きながらのトレーニングをしている。管理者からミーティング時指導や助言をし資料文献などを提供している。	○	
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム職員との交流があり相談、意見交換などでサービスの質の向上に取り入れている。地域で行う勉強会に参加し交流を図っている。	○	
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が相談できる環境を作り話し合い、各自の現状を知り理解している。職員同士が気兼ねなく意見交換が出来る場を作っている。職員の親睦会を行い気晴らしの機会を作っている。	○	
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回人事考課を行い一人一人の実績や努力を把握評価している。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が困っている場面や、落ち着かない様子が見えた時、そばに行き話し聞いたり寄り添ったりすることで安心してもらえるよう努力をしている	○	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会や電話連絡するとき、家族にホームでの暮らしぶりを知らせている。家族からは今までの姿を聞かせてもらい家族の気持ちを受け止め不安や、求めていることを知るよう努力している。	○	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容をよく聞き必要としている支援について話し合い情報を提供している。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、ホームを見学してもらい本人の気持ちがそこで生活してみたいと思ってくれるよう配慮している。本人のペースにあわせ徐々に場になれ、他者となじみが持てるよう工夫している。居室に使い慣れた家具を持ってきてもらえるよう家族と相談している。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームの基本理念を職員が共通認識できるよう学習している。本人と共感しあいながら擬似家族的な関係を作っている。過剰なサービスは避け自立支援に取り組み相手から学ぶ姿勢を築いている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を伝えることで、職員と家族が今の状況を共有し、行事にも参加の声がけし参加していただくことで共感し一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面接時、面会時にこれまでの関係を知り理解し、よりよい関係が継続できるよう支援している。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を自由にしてもらったり、馴染みのところへ外出できるよう支援している。良心市、夏祭り、神社参拝など個々人の馴染んできた場所へ一緒に出かけている。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の会話がスムーズに出来るよう、気持ちを代弁したり、難聴の人には仲介してお互い受け入れ支えあう関係づくりが出来るよう配慮している。	○	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	電話連絡して今の状況を理解し相談があれば話を聞き、関係を断ち切らないようにしている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と話をし希望を聞いている。また、生活を共にすることで何を望んでいるかを把握しようと努力している。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から話を聞き今までの生活ぶりを把握している。ほかの事業所からの情報も得ている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ホームの1日の流れの中で個々人思い思いの生活パターンを大切にしている。その日の気分、その日の体調に合わせた柔軟な対応を心がけている。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が訪問した時会話の中で介護計画の説明し、意見を聞いている。本人にもホームでの希望を聞く機会を多く持っている。また日々のかかわりの中で本人がよりよく暮らせるための課題を探り関係者と意見やアイデアを出しながら作成している。	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しをしており、退院後など状態が変わった時は見直しをしている。実施後は、評価をし記録に残している。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	○	
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	○	家族、本人の意向を踏まえ、他の受けれるサービスを支援していきたい
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	○	
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>実際に重度化したり、終末期の方がいる状態になった時再度本人、家族、かかりつけ医などと繰り返し話し合いたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時やプライバシーに関するときは本人の側へ行き他者に聞こえないよう配慮している。居室に入る時は、ロックをして入っている。	○	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	いろいろな場面で本人が決めることができることはきめてもらっている。自己決定できるような言葉かけをしている。本人の希望や、意思を伝えることができるような関係作りをしている。	○	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの流れに合わせるのではなく、一人一人のペースに合わせるようにしている。本人の意思を大切にしている。	○	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容は本人家族の希望する時に訪問してもらっている。数人は家族の協力で行きたい理美容店へ行っている。	○	本人の望む理美容室を利用できるよう援助したい。訪問でなく地域の美容店も利用できるよう援助したい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みを聞きメニューに取り入れている。買い物や料理、盛り付けなども一緒に行っている。旬のもの取り入れ季節感や行事を思い出してもらっている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	晩酌希望の方には準備している。一人一人の嗜好に合わせている。一緒におやつを買いにいて本人に選んでもらっている。また外食に行き好みの食事を選んでいる。	○	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを把握し、自立でない人にはその人の時間で誘導している。パットやリハビリパンツの使用が少なくなるよう努力している。	○	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の気分に応じてや時間帯など本人の意思を尊重して入浴を楽しんでもらっている。仲のよい人同士で入ることもある	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の状況に合わせて休息が出来るようにしている。夜間は、入眠までは静かな雰囲気を作り眠くなるまではリビングでゆっくり過ごしてもらっている。	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1日の中で一人一人が得意とする役割を見つけ参加できるよう声がけし誘導している。また生活歴を生かし他者に披露できることはしてもらっている。気分転換に散歩、ドライブ、外食などに出かけている。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を所持できる入居者は持ってもらい一緒にスーパーやコンビニ、良心市などへ行き選んで買ってきている。	○	


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がよい日には、近所を散歩したり庭の草引きを一緒にしたり、ドライブや買い物に誘ったり外出する機会を作っている。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	美術館、神社、祭りなど本人の行きたいところを聞き個別で行き、また家族の協力をもらいながら、遠出をしている。	○	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らが電話したい時は、ホームの電話を貸してあげ話しをしてもらっている。、手紙を書いたらポストまで一緒に行き出せるよう援助している。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	開放的な環境を作りいつでも訪問できるような雰囲気作りをしている。プライベートな話は、居室でゆっくり話ができるようお茶だけをお持ちしたり、またリビングで話が出来そうだったら一緒に他の入居者や職員とお茶を飲んで会話している。	○	
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての学習をし、DVDや資料を使って自分たちのケアを振り返り身体拘束はしないケアに取り組んでいる。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が外に行きたい様子が見えたら止めずにさりげなく声をかけ、一緒についていくなど安全に配慮し、自由な暮らしを支えている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	食堂，居間で過ごすことが多いので職員1名はそこから離れないようにしている。また、目配り、気配りに配慮しながら、誰がどこで何をしているか把握するようにしている。記録を書く際も入居者の側で書くようにしている。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やはさみ、針、洗剤など使用する際見守り、側を離れないようにしている。使用後は、目に付かない所定の場所へ片付けている。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人のリスクをアセスメントし、ケアプランに取り入れ共有している。事故防止マニュアルを作成し事故防止に取り組んでいる。	○	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の人に来てもらい、応急手当や心肺蘇生の訓練を行っている。一人一人のリスクをアセスメントし共有している。急変や、事故発生時のマニュアルを作成して日頃から読んで学んでいる。	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施して利用者が避難できる方法を身に付けている。	○	地域の人を交えての避難訓練を取り組みたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人一人をアセスメントし起こりえるリスクを共有して事故を未然に防ぐよう努力をしている。リスクがあっても制限することなく自由に暮らせる環境に取り組んでいる。ミーティングや職員会でそのことも取り上げ話し合っている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	側にいることで早期に体調変化に気がつきバイタルサインを測っている。異変があれば、出勤者にはその時に申し送り対応してる。休みの職員には、電話、もしくは申し送りノートによって速やかに情報を共有して対応している。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作成し個人の服薬を理解している。また、薬の本を読み効能や副作用を学習している。症状の変化があれば記録し共有し確認している。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多く取り、繊維のある食物を常に提供している。一人一人の排便をチェックし、パターンを確認し便秘がひどい場合は、服薬できるよう支援している。決まった時間にラジオ体操をし、散歩や外出して身体を動かす機会を設けている。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアが出来るよう、声がけ見守りしている。充分磨けない人には介助している。睡眠中は、義歯をポリドントに漬けている。	○	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	少食の人や好き嫌いのある人には、果物、栄養補助食品を利用している。一人一人の習慣や好みに応じた提供をしている。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	ホームの玄関に消毒液を準備し、来客や職員からの感染を防いでいる。外出した際、帰ってきたらうがいと手洗いを励行している。普段から、手すりなどが使うところは清潔を保っている。感染症の予防マニュアルを作成し学習し、また研修に参加して共有している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫は週に2回掃除を励行している。また、まな板や包丁、ふきんなどは食器用の消毒液で消毒をしている。食器類は1度洗った後食器洗浄器にかけている。近くにスーパーがあるので買いだめせず、こまめに食材の買出しに行っている。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に鉢植えをおき暖かい雰囲気を出すよう努力している。玄関は家庭的な装飾品を飾って威圧的にならないよう工夫をしている。ユニットの玄関にも植木や置物を置いて入りやすい環境を作っている	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、視覚に刺激を与えないようまた不快な音や光がささないよう工夫をしている。共有空間でもそれぞれの居場所を確保しており、落ち着いて暮らせるよう配慮している。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食堂など共有空間でも一人一人の居場所があり落ち着いている。お互いに干渉することなく、本を見たい人、テレビを見たい人、仲良し同士で会話したい人と思いつきの暮らしを楽しんでいる。	○	家族、地域の人、職員関係者に声をかけ時代背景を感じる物品を提供していただき共有空間に置きたい。ホーム全体に馴染みのものを置けるよう働きかけたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で、使い慣れたものを持ち込んでおり本人の生活習慣に合わせてその人らしく生活が出来るよう工夫をしている	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の清掃を、入居者と行い細かいところは職員がまめに清掃しており気になる匂いはない。来訪者にも嫌な臭いがないといわれる。環境の清潔を職員が共有して努力している。外気と差がないよう冷暖房はまめに調節している。また、換気もまめにおこなっている。	○	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、風呂場などに手すりがあり、ホーム全体に段差がなく安全である。居室は自立した生活ができるよう工夫をしている。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人のできることを出来ないことを観察理解し、本人の持っている能力を発揮できるよう援助している。その日の気分や体調にあわせて、家事仕事を一緒におこなって失敗がないよう見守っている。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先や庭で野菜や花を植え手入れや水やりをし、草引きが好きな人は引いてもらい楽しんでいる。ベランダで洗濯を干して活動している。	○	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

①職員側が生活を決めるのではなく一人一人の希望や生活暦を考慮して、意志や気持ちを尊重するようにしている。そのために、入居者本人が自ら動いたり発語できるよう待てる、相手の話を聞ける職員になれるよう日々努力している。そのことで入居者の自発性を少しずつ引き出せている。また一方的なお世話をするのではなく共に生活している生活者としての感覚を身につけるよう努力している。②環境を家庭的に、季節の花をいつも飾ったり季節感を感じる食材や置物を置いて季節感を大切にしている。嫌な匂いがないよう掃除は入居者と楽しんですると共に、細かいところの清掃は職員がまめにすることで清潔感を保つようにしている。③開放的なホームをめざし来訪者が来やすい雰囲気作りをしている。入居者、職員がいつも笑顔でお互いを思いやって生活している。